様式１－３（統一栽培暦様式）

もっと安心農産物　春菊栽培暦

ＪＡちばみどり　千潟園芸組合蔬菜部会

１．防　　除

令和８年

月／旬	作業	病害虫の発生時期	薬　剤　名	濃度、使用量	使用時期	備　　考
7～8月						○夏期太陽熱消毒又は、土壌還元消毒の実施
9月	播種		チウラム （消毒済購入種子）			○育苗ハウスは、防虫ネットを張り害虫の侵入を防ぐ。
10／中	移植	アブラムシ マメハモグリバエ ネキリムシ類・ヨトウ類 炭疽病・べと病	ベストガード粒剤	9kg／10a	定植時、又は収穫3日前迄のどちらか1回の使用	
10／下			ガードベイトA	3kg／10a	生育初期	**害 虫 対 策** ○ハウスの換気・出入口は、ネットを張り外部からの害虫侵入を防ぐ。 ○ハウス周辺の雑草は、害虫の住処になるので除草を実施する。 ○ホリバーを吊るし害虫を捕殺する。（ハモグリバエ防除／黄色） ○ハウス内で、春菊以外の作物を作らない。
			スクレアフロアブル	2000倍	収穫前日迄	
11／上			ディアナSC	2500倍～5000倍	収穫前日迄	
11／中	収穫始め					
11／下			コサイド3000	2000倍	—	
12月		アブラムシ ハモグリバエ べと病	＊収穫中の病害虫防除剤 ＊ハダニ類対策 サンクリスタル乳剤　300～600倍　— ＊ハスモンヨトウ対策 ゼンターリ顆粒水和剤　1000倍　発生初期但し収穫前日迄 カスケード乳剤　2000～4000倍　収穫7日前迄 ＊アブラムシ対策 ダントツ水溶剤　2000～4000倍　収穫3日前迄 ＊軟腐病対策 コサイド3000　2000倍　—			**病 害 対 策** ○病害発生株は直ちに抜き取り、圃場外に穴を掘って埋める。 ○灌水を一度に多量に行うと菌核病・炭疽病が発生するので、低圧少量灌水で回数を増やす。 ○菌核病・炭疽病は、地表面の病原菌が灌水により土壌とともに跳ね上がり感染する。又、ハウス内の湿度が高くなると蔓延しやすいので、適度に換気を行う。 ○株が混みあうと菌核病が発生しやすいので、株間は広めにとり、株元の通風を良くする。
1月						
2月						
3月						
4月						
5月						

※ 物理的防除を取入れて農薬散布回数を減らします。

２．土づくり

完熟堆肥を年に一回以上入れ土作りを行なう。

（入手先、原料の確認が出来る物）

３．施　　肥

☆　施肥診断にもとづく施肥量の遵守　※2

☆　有機質１００％の肥料を使用（化学肥料の窒素成分量栽培期間中不使用）

	肥　料　名	施　肥　量	
基肥	味　好　１　号　※1	２６０ｋｇ	
	菜　種　粕	１００ｋｇ	
	過燐酸石灰（粒）　※３	４０ｋｇ	
	けい酸加里プレミア３４　※３	４０ｋｇ	
	粒状サンライム（有機石灰）※３	４０ｋｇ	
	粒状硫マグ２５　※３	４０ｋｇ	
追肥	味　好　１　号　※1	６０ｋｇ	（１回あたり）
	有機アグレット６５５ｅｃｏ	６０ｋｇ	〃
	ともだち８４３号	６０ｋｇ	〃
	ソイルサプリエキス	適時	
	カルプラス	適時	石灰欠乏対策
追　加	セルキープ	随時	石灰欠乏対策
	鉄力トレプラス	適時	鉄欠乏・マンガン欠乏対策

※1　土壌分析結果により味好１・２・５号を使い分けて適切な施肥を行なう。

※2　土壌分析結果により前作の肥料が残っている場合は、施肥を控える。

※3　土壌分析により不足している成分を補う為に使用する。（燐酸・加里・石灰・苦土）

節減対象農薬の使用状況			
農　薬　名	使用資材名	用　　途	使用回数
（消毒済購入種子）	チウラム	殺　菌	１回
スクレアフロアブル	マンデストロビン	殺　菌	１回
ベストガード粒剤	ニテンピラム	殺　虫	１回
ガードベイトA	ペルメトリン	殺　虫	１回
ディアナSC	スピネトラム	殺　虫	１回
ダントツ水溶剤	クロチアニジン	殺　虫	２回
カスケード乳剤	フルフェノクスロン	殺　虫	１回

☆みんなで守ろう生産基準